

あなたは何を持って行きますか？

中学校・2～3年生

I プログラムについて

1 人権教育上のねらい（普遍的な人権課題「生命尊重」）

＝【人権感覚育成のための視点】

震災時の避難の際に、それぞれの家族に合った非常持ち出し品を選ぶ活動を通して、自他の生命を尊重するとともに、互いに支え合って生きていることを理解し、生命への畏敬の念をもつことができるようにする。

◇関連する個別の人権課題「災害時における人権への配慮」

2 関連する教科等について

○学級活動

内容（2） 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
（エ 心身ともに健康と安全な生活態度や習慣の形成）

3 人権教育上の視点

（1） 生命の尊さを理解し、自らの命を大切にするとともに、他者の生命も尊重することができる。（価値・態度）

II アクティビティーについて

1 概要

○活動1

各自が、地震等の震災を想定し、リストの中から非常持ち出し品を選ぶ活動を行う。

○活動2

自分の考えをもとにグループで話し合い、グループとしての考えをまとめる活動に取り組む。話し合いを通して、気付いたことや感じたことを話し合う。また、自分のこれからの生き方について考える。

2 準備するもの

○ワークシート

○非常持ち出し品リスト

○振り返りシート

3 アクティビティーの進め方

- 活動1 「あなたは何を持って行きますか？」
 - ① 本時の活動における状況の説明を聞く。
 - ② 個人（自分の考え）で、非常持ち出し品を選ぶ活動に取り組む。

- 活動2 「話し合い」
 - ① 個人の考えをもとに、グループで意見交換をし、グループとしての考えをまとめる。
 - ② グループごとに自分たちの考え（選んだ理由等）を発表する。
 - ・一人一人の考えを尊重することを踏まえる。

- 活動3 「振り返り」
 - ① 活動を通して、気付いたことや考えを振り返る。
 - ・他者の考えに対する理解を深める。
 - ・人権の大切さについて考えを深める。
 - ・今後の生かし方について考える。

4 アクティビティーを指導する際のポイント

- 非常持ち出し品を選ぶ活動は、選ぶことだけが目的ではなく、生命の尊さを考え、人は互いに支え合って生きていることを理解させることが最大のねらいであることを意識して指導にあたる。
- 非常持ち出し品リストを十分確認し、時間をかけてよく考えてから選ぶ活動に入るよう指導する。
- 家族構成は、クラス・生徒の実態等によりA～Gを選択して、割り振る。

- A 父親、母親（重い病で寝たきり）、子2人（中学生、高校生）、祖母（70歳代）の5人家族
- B 父親（足に障害があり車椅子を使用）、母親、子2人（小学生、中学生）の4人家族
- C 両親、子2人（生後3～6か月の乳児、3～4歳の幼児）の4人家族
- D 両親、子2人（小学生、中学生） ※ 父親が遠隔地に単身赴任中
- E 70歳代の老夫婦のみの家族
- F 両親、子2人（中学生、大学生）
※全員外国籍で、母親は日本語が十分話せない。大学生の子は遠隔地で下宿中
- G 祖父・祖母・父・母・子3人のうち4～6人を選択

- グループでの話し合い活動を通して、生徒相互の人権についての意識の高まりを効果的に引き出せるよう、助言・支援する。
- 例えば防災週間（8月30日～9月5日）や避難訓練の時期に合わせて実践すると効果的である。

第1章 理論編
 第2章 事例編
 人間の尊厳
 生命尊重
 自己尊重の感情
 共感と連帯感
 公平・公正
 多様性の尊重・共生
 コミュニケーション
 権利と責任
 参加・参画
 第3章 資料編

Ⅲ 授業の実際

時間	学習活動 発問 (T) 生徒の反応例 (S)	教師の働きかけ (・) 人権教育上の配慮 (◎)
10分	1 本時の活動内容の確認 2 状況の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動について説明する。 ・グループ学習ができるように準備する。(3～4人構成) ・ワークシートを配布し、状況について説明する。 ・グループごとに家族構成を割り振る。
25分	3 個人での非常持ち出し品の選定 T まずは個人で、家族に必要な非常持ち出し品を選んでください。 S 食べ物・飲み物。 4 グループによる話し合い活動 T グループで話し合い、今度はグループとして非常持ち出し品を決めてください。 S コレクションは持っていきたくないけど、仕方ない。 S 10kg以内にするのは難しい。	<ul style="list-style-type: none"> ・選ぶ活動に終始せず、選んだ理由を説明できるように促す。 ・グループとしての意見をまとめる際に、選んだ理由だけでなく、持って行きたいが持って行けないものや離れて暮らす家族についても考えられるよう助言・支援する。 ◎一人一人の生命の大切さに気付けるように、家族それぞれに応じて必要な非常持ち出し品を考えるように指示する。(価値・態度) ・非常持ち出し品を選んだ理由等を明確にして説明するよう促す。
15分	6 振り返り T 本時の学習を通して気付いたことや感じたことを話し合いたいしょう。 T 本時のまとめを振り返りシートに記入してください。 S 大事なものはたくさんあったが、家族一人一人のこともしっかり考えないといけない。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習について、グループで話し合うよう指示する。 ・リストにあったペットの生命も大切であり、どうすればペットの生命を大事にできるかという視点も大切であることに触れる。

IV 資料

(1) ワークシート

あなたは何を持って行きますか？

() 年 () 組 氏名 ()

状況

本日、22時に震度6の地震が発生。幸いにも家族は無事でしたが、家は半壊し、このままとどまるのは危険な状態です。避難所へ向けたバスがあと30分で出発します。避難所のスペースの関係で、持ち込める荷物は一家族10kg入りバッグ一つと決められています。あなた(の家族)は何を持って行きますか？

非常持ち出し品 記入用

家族名	個人に必要なもの・理由	家族に必要なもの・理由
重さ 小計	A kg	B kg
重さ 合計	A+B kg	

(2) 非常持ち出し品リスト

非常持ち出し品リスト		※ 1 品目は全て 1 人分	
① 犬や猫などのペット	5 kg	⑰ 携帯用テレビ	1 kg
② パソコン	2 kg	⑱ ハンカチ・タオル・靴下・スカーフ・手袋など	0. 5 kg
③ 救急医薬品	0. 5 kg	⑲ 常備薬	0. 1 kg
④ 預金通帳・クレジットカード	0. 1 kg	⑳ CD・ビデオ・DVD	0. 5 kg
⑤ パスポート	0. 1 kg	㉑ 愛読書・仕事に必要な図書	1 kg
⑥ 生徒手帳・学生証	0. 1 kg	㉒ 筆記用具	0. 1 kg
⑦ 携帯用ラジオ	0. 2 kg	㉓ 家族のアルバム	1 kg
⑧ 着替え・下着・オムツ類	0. 8 kg	㉔ キャンプ用調理器具・はし・スプーンなど	2 kg
⑨ 先祖の位牌	0. 5 kg	㉕ 防寒具	2 kg
⑩ おにぎり・お弁当・ミルクなど	0. 2 kg	㉖ コレクション・愛用品など	1 kg
⑪ お気に入りの服・着物	2. 5 kg	㉗ 不動産の登記証書	0. 1 kg
⑫ デジタルカメラ	0. 3 kg	㉘ 時計	0. 1 kg
⑬ 印鑑・印鑑証明カード	0. 1 kg	㉙ 携帯電話・スマートフォン	0. 2 kg
⑭ 自動車運転免許	0. 1 kg	⑳ 保存食品 (ハム・梅干し・昆布など)	0. 5 kg
⑮ 水 (ペットボトル 1. 5 L 1本)	1. 5 kg	㉑ 貴金属・宝石など	1 kg
⑯ 化粧品	0. 8 kg	㉒ サバイバルナイフ	0. 2 kg

※ 必要に応じてリストの品を増減してもよい。

(3) 振り返りシート

「あなたは何を持って行きますか？」振り返り用紙

() 年 () 組 氏名 ()

- 1 非常持ち出し品を選ぶ活動を行って、次のことを書きましょう。
 - (1) 気付いたことや感じたこと。

 - (2) グループでの話し合いを通して、分かったことや学んだこと。

- 2 この学習で学んだことを、今後どのように生かしていきたいですか。
(例 今後の生活で気を付けたいことや生かしたいことなど)